

(社)日本原子力学会 標準委員会 発電炉専門部会
第11回 確率論的安全評価分科会 (PISC) 議事録

1. 日時 平成13年3月12日(月) 16:30~20:30
2. 場所 原子力発電技術機構 8F大会議室
3. 出席者 (敬称略)
(出席委員) 平野(主査), 矢作(幹事), 加藤, 福田, 中井, 成宮, 藤本, 村松,
松本, 森田, 山下(11名)
(欠席委員) 古田(副主査), 佐藤(2名)
(常時参加者) 倉本, 増田(2名)
(傍聴者) 大山, 野田(2名)
(事務局) 太田

4. 配付資料

PISC11-1 第10回 確率論的安全評価分科会議事録(案)

PISC11-2 標準原案(各分担分改定版)

- 1 1. プラントの構成・特性の調査総論
- 2 3. 起回事象の選定
- 3 4. 成功基準の設定 / 5. 事故シーケンスの分析
- 4 6. 緩和系の信頼性評価
- 5 8. 人間信頼性解析
- 6 10. 事故シーケンスの定量化

PISC11-3 用語集

- 1 1. プラントの構成・特性の調査総論
- 2 3. 起回事象の選定
- 3 4. 成功基準の設定 / 5. 事故シーケンスの分析
- 4 6. 緩和系の信頼性評価
- 5 7. 従属故障評価
- 6 8. 人間信頼性解析
- 7 9. データベースの作成

5. 議事

議事に先立ち、事務局より、委員13名中11名が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしていることが報告された。

1) 前回議事録の確認

前回議事録について、承認された(PISC11-1)。

2) 標準原案検討

山下, 松本, 中井, 村松, 矢作, 及び加藤の各委員より、資料PISC10-2-6, 11-2-5, 10-2-8, 11-2-6, 及び資料PISC11-2-1~2-2により、各委員で分担作成した標準原案(素案)の説明があり、以下のような審議がおこなわれた。

①第7章関連

- ・語句等の適正化

②第8章関連

- ・8章序文において、発生頻度が0の事象に対しては論理モデルとしてTHERP手法が適用できるとするが、但し書きとしてTHERP手法適用に係わる留意点の要点を記載する。
- ・8章序文において、THERP手法以外の手法に関する記載及びTHERP手法の詳細に関する記載を削除する。
- ・8. 10において代替サブタスクがある場合の留意点、事象によっては適用できない場合があること、先行サブタスク失敗時の扱い等を追記する。併せて、8. 11(1)において時間余裕がある場合の記載内容を適正化する。要員の交代に伴う考慮について記載を検討する。
- ・8. 11(3)において記載の適正化を図る。
- ・解説表8-1 No2の出典NSAC-84は、直接の引用ではないので削除する。
- ・その他語句等の適正化

③第9章関連

- ・フロー図の変更等を確認した。

④第10章, 11章関連

- ・10. 5 感度解析に停止時特有の解析(例えばタイムウィンドウ解析)に関する記載を追記する。
- ・10. 6(2) リスク増加価値における説明の記載の適正化を行う。(3)Birn Baum法の説明文を一部削除する。

- ・ 1 1. 2 報告書の記載内容の並びを修正する。
- ・ その他語句等の適正化
- ④ 第 1 章～3 章関連（再レビュー）
 - ・ 図の物理量単位をSI化する。(1、2 章)
 - ・ 配管破断の記載を 3. 1 に追加する。(3 章)
 - ・ 起回事象のカテゴリ分類を削除、一般的な分類として燃料過出力を伴う事象、原子炉冷却材流出を伴う事象及び崩壊熱除去機能喪失を伴う事象を提示する。図 3-1 は、3. 1 で引用することとし、表 3-1 は、B,P 別表としグループ分類を細分化する。(3 章)
 - ・ 解説図 3. 2-2 脚注を削除し、新たに解説表 3. 2-1 脚注 2 を追記する。(3 章)
 - ・ その他語句の適正化
- 3) 用語集の検討
各委員で分担作成した用語集（PISC11-3-1～-3-7）について、用語の統一のためのチェックを実施した。
- 4) 今後の進め方として、担当以外に 2 人程度を指名し、複数の目でカバーしチェックを行っていくのが望ましい。
- 6. 次回の予定
第 1 2 回分科会を、3 月 2 7 日（火）1 3：3 0 から、原子力学会又は原子力発電技術機構で行うこととした。

以上